

早く大きくなあれ

園児がミニナラの苗植樹

札幌市北区の三和新琴似
保育園（菊地秀一園長）は
十日、手稲区の山口緑地で、

年長園児二十三人による植樹を行った。園児たちはミニナラの苗木五十七本を楽しく植え込んだ。

東京のNPO法人「子ども森つくり推進ネットワーク」が、幼いころから環境意識を根付かせようと全国で展開している運動の一環。同保育園が道内からモデル園として参加した。

一連の活動に協力しているNPO法人「C・C・C富良野自然塾」の斎藤典世さんに教えてもらいながら、園児たちは段ボール製の育苗ポット「カミネッコン」で根を覆った苗を斜面に置き、石や土をかぶせ固定して植えた。

橋本歩ちゃん（6）は「土を掛けるのが大変だった。早くドングリがなる木になってほしい」と話していた。



スコップを使って苗木を土で覆う園児たち

（星野真）